



地上は苦手です…

機能的な身体髪膚

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

体の形状に無駄のない“アズマモグラ”

例年に比べてずっと早く開花したオオヤマザクラが一段と目を惹く開葉のまばらな明るい森で、アズマモグラに出会いました。園路の道の真ん中にいたモグラは既に事切れていましたが、目立った傷はなく、ただ動かないだけで生きていたようでした。雪がとけるとあちらこちらに土が盛り上がっている“モグラ塚”をよく目にする度に「モグラだよ」と当たり前のように思っていたのですが、実際に姿を目にするのは初めてのこと。同じように道の上で見つけることの多いヒミズと同様に独特の体臭があり、キツネやフクロウなどの天敵に捕まえられても食べられずに放置されることが多いようで、今回もそのケースだったのでしょうか。持ち上げてみるとピロロド状の毛がびっしりと生えた体はわらび餅のように柔らかく、ずっと触れていくような触り心地です。グローブのような前足で土をかき分けながらトンネルを掘り、垂直に生えているフワフワな毛は一方通行のトンネルでもスムーズに後進することができ、鼻には食べ物となるミミズや虫などの微かな振動を感じ取る「アイマー器官」という優れた装置も備わっているのだとか…。シンプルな体の作りには地下で暮らすための機能が集約されていて、これまでのモグラのイメージが一変した出会いとなりました。

What is “Azumamogura”?

「東日本に多いモグラ」

モグラ科

頭胴長：121～159mm

分布：本州中部以北（西日本にも一部分布）

草地、農耕地、山地の森林などに生息する。日本固有種。西日本に生息しているコウベモグラよりひと回り小さい。トンネルの直径が4cm弱のため、石や木の隙間をぬって掘ることができることで西日本の山地にも飛び地のよう分布している。

(同定協力：伊達生物調査事務所 伊達 功 氏)
(参考図書：「モグラ博士のモグラの話」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



第1回 網張の四季
もりごよみ

網張ビジターセンターでは開館当初から「網張の森」の自然情報を記録してきました。今回は過去10年のデータを振り返り、今時期らしい“旬”をご紹介します。

5月1日 10日 20日 31日 6月1日 10日 20日 30日

初鳴き	オオルリ		(ウグイスの仲間やキビタキ、コルリ、ルリビタキ、アカハラ等、夏鳥がにぎやかな時期です)							
	ツツドリ	カッコウ	ホトトギス	エゾハルゼミ (下旬くらいから大合唱が始まります)						
確認	スズグシロチョウ	ヤマキマダラヒカゲ	サカハチチョウ		カラスアゲハ	ベニシジミ	ミドリヒョウモン	ミスジチョウ	アサギマダラ	
	ピロードツリアブ	アオダイショウ	ヒシバツタ・ヤブキリの幼虫	イタドリハムシ		ヤマアカガエル成体へ	ミヤマクワガタ	トビロツノゼミ		
開花	オオヤマザクラ	ムラサキヤシオ	オオカメノキ	トチノキ		タニウツギ	ナナカマド	ホオノキ	ミヤマガズミ	ツルアジサイ
	スマレサイシン他スマレ各種	ミツバツチグリ	マイヅルソウ	シラネアオイ (ゲレンデ)	コナスビ	オオヤマオダマキ	ギンリョウソウ			

スプリングエフェメラルを追いかけるように、ピロードツリアブが現れたのを見かけると、ほっとした気分になります。モフモフした姿は愛らしく、「頑張ってるね～」と思わず声をかけたくなります。



森の掲示板

萌黄色が深まる中で、ハウチワカエデが時おり見せる“春もみじ”は控え目ながら趣きがあります。葉が出そろうと鳥たちも安心するのか、夏鳥たちのさえずりにもいっそうみがきがかかります。

長い期間を地中で過ごしたエゾハルゼミたちも、おもむろに“初夏の祭典”への参加を表明し、やがては夏鳥たちの声をかすませるほどの蝉時雨を森に降らせませす。

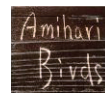


森を散策した際に、本物に出会えるといいですね！



ホトトギス
科名：カッコウ科
全長：約 27.5cm
生態：夏鳥
分布：全国

K.Hirano '23



アミハリ・バーズ
Vol. 5 0

卵の花¹の 匂²う垣根³に
時鳥¹ 早も来鳴きて
忍び音²もらす 夏³は来ぬ

作詞：佐々木 信綱
作曲：小山 作之助

- 1.ウツギ (空木) の花
- 2.音をひそめた声
- 3.夏が来た

目を閉じると、初夏の里山の風景が浮かんで来るような唱歌です。ホトトギスは古来から日本人の琴線に触れる存在なのか、万葉集に登場する野鳥の中で、雁を大きく引き離し最も詠まれているそうです。「特許許可局」で知られる特徴的なさえずりは、昼ばかりか夜も鳴き続ける事があり、恋にわずらう中世の歌人をさらに眠れなくさせたようです。托卵されたウグイスが自分の体よりも大きな雛鳥を世話する姿を、憐れみをもって詠んだ歌もあるとか。「鳴かぬなら～」と戦国大名らにも一目置かれるホトトギスですが、その姿を人前にさらす事は少なく、さながら忍びのようです。

「山小屋に憩う」(1)

不動平避難小屋の39年 阿部ひろあき

「フドウダイラ」??

岩手山9合目の不動平を「フドウダイラ」と言う登山者を時折見かける。これにはかなり違和感を覚える。通常、我々は「フドウタイ」と呼んでいる。これは八幡平を「ハチマンタイラ」ではなく、「ハチマンタイ」と呼ぶのと同様である。県山岳界重鎮の矢羽文一郎氏作成資料にも「フドウタイ」とふりがなが付されていることをみれば、これが地元で伝わる呼称なのだと思う。大事にしたい。

小屋との関わり

それはさておき、その不動平に無人の避難小屋がある。通称「不動平小屋」。ここに仲間たちと通い続けて足掛け39年。全くのボランティア作業で、小屋の維持管理に関わってきた。特に後述の二代目小屋(S59~H17)は我々グループが維持管理全てを担った。三代目小屋(H17~)は岩手県から滝沢村(現滝沢市)に管理委託されたが、実務は岩手県山岳スポーツライミング協会(以降「県山岳SC協会」と略称)が担当している。しかし、二代目小屋管理の実績もあり、管理業務の一部については、我々グループに任されてきた。

その仲間たちも高齢化に伴い岩手山登山自体が年々厳しくなっていて、小屋管理も難しいことから、令和4年度をもって県山岳SC協会に引き継ぐこととなった。今後は同協会が主導する管理作業等に、我々仲間も対応可能な場合は応援参加させて頂くこととしている。

不動平避難小屋の前身

不動平地区の避難小屋は、江戸時代に建てられたと伝わる不動岩付近石室の「撰待小屋(お助け小屋)」がその前身と言えそうだ。

大正9年7月発行の「巖手山記」(小原兄麿著)には、「山



室石の平動なるな目合九
(写真1) 不動岩付近の石室(「巖手山記」より)

上唯一の宿泊所にして、飲食物の用意あり」との記述とともに、その写真(写真1)と大正4年8月に北白川宮殿下で登山の際のあざみ汁のエピソードも紹介されている。

初代の不動平避難小屋

初代の小屋は昭和33年に岩手県により建設された。昭和31年の国立公園編入(十和田八幡平国立公園)を機に整備されたものと伝わる。

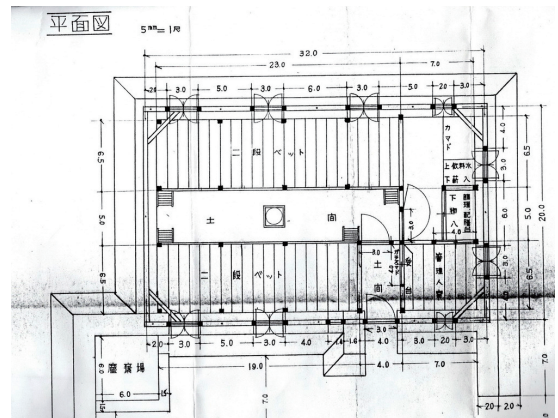


(写真2) 初代の不動平避難小屋
(昭和56年撮影)

写真は建替えの予算要求資料として昭和56年に撮影したものだが、現在はこの1枚しか手元に残っていない。(写真2)

写真撮影時は屋根が潰れ、内部はゴミや汚物で一杯。とても利用できる

状態ではなかった。しかし、その外観には心惹かれた。石積みの外壁は不動岩石室のイメージ。屋根が潰れていなければ、当該場所にピッタリ。内部は当時調べようがなかったが、幸いに設計図面の一部が残っていた。(写真3) 自然保護課で二代目小屋建設工事を担当したT君が届けてく



(写真3) 初代不動平避難小屋平面図

れた。それによれば、約17坪で中央が土間、両側に床板張があり上部にも梯子で登り寝泊りできるスペース(二段ベッド)も確保されていた。出入り口右手には約1.3坪の管理人室がある。驚いたことには、その奥に炊事用のカマドや調理台、薪や水の置き場まで図面に明示されていた。しかし、トイレは無い。小屋周囲で処理したのだろう。

この不動平小屋にトイレが併設されたのは6年後の昭和39年。小屋の東側約30m先に大きな公衆便所が設置された。(写真4) 規模は小屋と同程度。外観は小屋に合わせた石積みの壁。国立公園の景観保持に最大限配慮された先輩たちの努力に敬意を表したい。



(写真4) 初代の不動平公衆便所
(昭和59年11月撮影)

不動平避難小屋再建への取り組み

不動平は岩手山頂直下で主要登山道4ルートが交わる場所である。避難小屋は天候急変時等の緊急避難場所として極めて重要な施設であることから再建することになった。

昭和56年に翌年度の予算要求。57年度予算に調査費(設計費等)と上屋等撤去整理費が認められ、58年度建設工事へのメドが付いた。(次号につづく)

岩手山地区パークボランティアの阿部丕顕氏執筆による「山小屋に憩う」を今号から6回に渡ってお届けします。39年の長きに渡り岩手山不動平避難小屋に携わっている中で、どのようなドラマがあったのでしょうか。どうぞお楽しみに。

4/2 「根開きのブナの森で 春を探そう」



今年は早々と里の桜が開花するなど春の訪れが早く、ササが出ている箇所もあり、標高の低い所はコースを選んで歩くことも。風のない穏やかな春の日差しの下、膨らみかけた木々の芽や野鳥のさえずりに春を感じながら大きく根開きしたブナの森を歩きました。犬倉山の斜面に面白い形の雪形が現れ、何に見えるかと話題になりました。「雪と青空、野鳥のさえずりと、その3つがあって最高だった」(スノーピーに見える?) 参加者感想より。総勢 21 名



5/7 「鞍掛山麓 花愛でるハイキング」



岩手植物の会の工藤宏氏を講師にお迎えし、咲いている花や開葉したばかりの植物も含め様々な植物について詳しく解説していただきました。また鞍掛山で見られる花が年々変化しているとの興味深いお話も伺いました。参加者からは「1つ1つの植物に名前があることを知ると愛着を感じる。今まで踏んでしまっていたのが申し訳ない」などの声も聞かれました。例年見られたカタクリは萌芽の時期を迎えていましたが、今回講師も初確認のエイザンスミレを参加者全員で観察することができました。総勢 21 名

網張の森の季節の変化を 楽しみませんか？

ビジターセンターでは気軽に自然を楽しめるミニ企画行事を毎週土日に開催しています。春のこの時期は「ちょっと森林浴散歩」「バードウォッチング」「生きもの探検」「花愛でるハイキング-スミレ編」等、この時期に見られる自然を楽しんでいただけるよう企画しています。この日は参加者が次々と面白いものや不思議なものを見つけ、参加者で共有しながら森林浴を楽しみました。



ヤマアカガエルのオタマジャクシ 生態飼育展示中！



「早く大きくなってね！」 4月4日～8日にかけてキャンプ場入口脇の湿地でヤマアカガエルの卵塊の一部を採取しました。孵化後バケツから水槽に移して皆さんにご覧いただいています。「可愛いね。また見に来るよ」と成長を見守って下さるリピーターさんもいます。6月24日(土)に『ヤマアカガエルの赤ちゃんを森へ帰そう』のミニ企画を開催予定。参加者募集中です。

インフォメーション

6/18(日) 『チョウチョがもっと身近に～ モニタリング調査体験』

10:00～12:00 網張ビジターセンター集合
共催・講師：日本チョウ類保全協会
定員：15名 ※定員に達しました
参加料：一人200円

7/8(土)～7/12日(水)

『夏の網張の森ヒメボタル観察会』

19:40～20:40 網張ビジターセンター集合
定員：各10名 ※要事前予約 7/8(土)は定員に達しました
参加料：一人300円

7/15(土) 国立公園で楽しむ親子の自然体験 『ナイトハイクと星空観察★』

18:50～20:50 網張ビジターセンター集合
講師：高橋 智香子 氏(星の案内人) 伊藤 修 氏(星の喫茶室)
定員：親子10組20名 ※要事前予約
参加料：大人 500 円 中学生以下300円



岩手山地区パークボランティアに 新たに15名が加わりました！

十和田八幡平国立公園内で活躍するパークボランティアが新たに15名登録となりました。岩手山地区パークボランティアは、2005年の誕生以来、岩手山周辺の自然保護や美化清掃、網張ビジターセンター行事の支援等様々な分野で活動しています。従来からのメンバーと合わせ総勢47名となりました。



(PV 登録研修会の様子)

現在開催中のビジターセンター企画展 5月1日(月)～6月30日(金)

-小坂 富男 写真展- 「季節のめぐり～小岩井農場」



昨年4月に上梓致しました写真集「季節のめぐり～小岩井農場～」に掲載している中からの作品展示です。新緑の風薫る季節、網張温泉、ハイキングなどと合わせ野山の息づかいを感じながら網張ビジターセンターに訪ねて来ていただければ幸いです。 - 出展者の言葉より -
なお、一部の作品を除き、5月、6月と作品を入れ替えて展示いたします。

モモンガのつぶやき

大型連休が明けてほっと一息つく頃、春の嵐がやってきました。季節外れの雪が新緑の森を冬景色に変え、若葉の一部やオオヤマザクラの花弁を地面に散らせる中、意外な事に施設のすぐ側で野鳥の大胆な行動を目撃しました。最初にキビタキ、そしてモズ。いずれもオスが別のオスに突っかかって追い払う状況で、なんだか荒々しい。「こんな天候になるなんて聞いてないよ!？」という、やるせなさをぶつけているように見えたのは気のせいでしょうか…。(K.H)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 3月 964人 ◆ 4月 1,008人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 3月 -0.2℃ ◆ 4月 4.2℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778
URL <http://amihari17.ec-net.jp>
E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp
開館 夏期 (4月から10月末まで) 休館日なし 9時～17時